

武蔵野市第 4 期健康福祉総合計画・第 6 期地域福祉計画策定に向けた 「地域福祉団体等ヒアリング」報告書

1. 実施概要

(1) 目的

武蔵野市第 4 期健康福祉総合計画（主に地域福祉計画、高齢者福祉計画・第 9 期介護保険事業計画）を策定するにあたり、市民の合意形成のプロセスとして、地域の福祉等に係る団体を対象に、市が直接ヒアリング・意見聴取を行う。

(2) ヒアリング対象

主に、地域福祉に関する現状、福祉における「共助」「互助」についての意見を聞くため、福祉関連団体及びその会員を対象とする。

- ・ 民生児童委員協議会／民生・児童委員
- ・ 赤十字奉仕団／団員
- ・ 保護司会武蔵野市分区／保護司
- ・ 地域社協（福祉の会）／会員
- ・ テンミリオンハウス運営団体代表者
- ・ いきいきサロン運営団体代表者
- ・ レモンキャブ運行管理者

(3) 日時・場所・参加人数

エリア	日時	場所	参加人数
西部	6月1日（木） 午後 3 時～4 時 30 分	武蔵野スイングスカイルーム	7 名
東部	6月2日（金） 午後 6 時 30 分～8 時	武蔵野商工会館市民会議室	2 名
中央	6月7日（水） 午後 2 時～3 時 30 分	武蔵野総合体育館大会議室	8 名

2. 意見

(1) 地域福祉団体等からの意見・要望（要旨）

民生児童委員協議会	<p>【地域の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・担い手不足による欠員地区の増加。・同じ人がいくつもの団体を掛け持ちしているため、どの団体も高齢化が進み、存続が危ぶまれている。・境南地域社協では、新たに加入した委員が PTA のつながりで同世代の市民に参加を呼びかけ、若い年代の新規委員が増加した。・PR不足ということもあるが、民生委員の活動に対して「大変・負担」といった印象を抱いている市民の方が多い。・地域とつながりのない市民の増加。・独居調査を希望する市民はまだ比較的若く、元気であることが多い。新型コロナウイルス対策や詐欺対策で訪問や電話に出ない高齢者も増加しており、地域の実情が掴み難く、本当に支援が必要な人に届いていないと感じる。・支援が必要な家庭、相談・問題を抱えた家庭が表に出てこない。
赤十字奉仕団	<p>【地域の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化・活動の担い手の減少。・新しい団員が入ってこない。・学生ボランティアが活用できるとよい。学校と連携できるとよい。・若い世代に活動を知ってほしいし、参加してほしい。・隣人関係、地域の人とのつながり、顔のみえる関係性が希薄。・個別訪問による活動資金集めが難しくなっている（世代交代、つながりの希薄、防犯的な警戒心）。・地域の防災の取組（防災訓練や炊出し等）を通じて、団体が地域に根差せるとよい。 <p>【健康福祉施策への意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none">・市内の学校で、教育の場で、赤十字奉仕団の活動を知ってもらえる機会がもらえるとよい。
保護司会武蔵野市分 区	<p>【地域の課題】</p> <ul style="list-style-type: none">・保護司の確保。・サポートセンターの充実ならびに面接場所の確保。

<p>地域社協(福祉の会)</p>	<p>【地域の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> • 団体の担い手不足と中心になっている人たちの高齢化。役員の引き受け手は少なく、役員の負担感はかなり大きいと感じる。 • 新たな担い手が増えない。 • 役員の担い手がいつも同じ人になっている傾向にある。 • 必要な人に必要な情報が伝えられるような運営委員の勉強、研修が不足しがち。 • 福祉に興味のある人に参加できるような人をつなげる努力不足。 • 若い担い手が入ってこない。全員の高齢化。 • だんだんとやり手の不足、高齢化が進み、やり手不足が進んでいる。 • PTA からの流れで役員を集めてきたが、共働きで今後はますます大変になり、立ち行かない。 • 代表者になることを快諾してくださる人が少なく、持続可能な活動ではなくなっている。 • 民生委員が少なく、担い手も少ない。 • 同一人物が複数の地域団体の担い手となっており、どこに行っても同じようなメンバーが集まっている。 • 新しい働き手の確保。 • 当団体をはじめ、他の地域団体も総じてメンバーが高齢化している。高齢者が進める会議は長くなりがちなので、若い人たちが敬遠する。 • 若い世代は無償のボランティアより、少額でも報酬のある仕事の方が価値があると思っている人が多いと聞く。 • このままでは福祉の会の活動は続かなくなるかもしれないと思う。 • 活動のマンネリ化。 • IT を含む様々な広報活動強化 • 旧来からの活動を運営することに時間がかかり、現代的課題になかなか手をつけられないことをもどかしく思っている。 • 活動拠点が必要（拠点まで行かなくても活動をサポート、フォローする仕組み）。 • 高齢の方々の外出が増えていないように思う。 • 居場所づくりをつくること。 • 災害時要援護者対策事業の支援者探しが難しくなっている。 • 現在の支援者も高齢で、支援者の交代も難しい。 • 各世代と及び各世代間の交流の強化。 • 多世代の参加、交流が必要。 • 地域への関心が弱くなっている。 • 地域の高齢者の方々は情報や交流する機会がコロナで少なくなっている。
-------------------	---

<p>地域社協(福祉の会)</p>	<p>いた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に難しい障害を持っている方に際しての対応、発災時の対応に困難があり、支援者がなかなか見つからない。 ・コロナ禍に伴う地域活動の抑制とそれに伴う地域連携の弱まり ・転入者への対応が必要。 ・老人クラブを通し、お互いに悩みが話し合えるような集まれる行事を考えている。 ・コロナ禍で特に急増した不登校への対応が遅れていると感じている。 ・一人暮らしの方への対応が必要。 ・コロナ禍で外出の機会が減っていた高齢者が、その間に入所や入院になったり、在宅でも未だ人の集まる場所には怖くて出ていけなかったりとメンバーが減ってしまった活動がある。 ・IT を含む様々な広報活動強化。 ・地域の活動では広報誌やチラシをポスティングするくらいしか接触する方法がない。 ・地域内各種団体との連携強化。 ・個々の他団体とのつながりはあるが、全体を網羅したつながりがあると良い。 <p>【健康福祉施策への意見・要望】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独居の友人、知人と連絡が取れないときに、安否確認したいのに個人情報壁にあたり、公共の機関から情報を得られない。 ・誰ともつながりのない、近所付き合いをしない人が孤独死しないよう、公的な安否確認方法はないか。地域の活動では、広報紙やチラシをポスティングするくらいしか、接触する方法がない。 ・若い担い手ができる様なくみづくり。 ・スキマ時間を地域福祉に関わってもらえるようなくみづくり。 ・災害時避難行動要支援者と災害時要援護者の統一化（名簿の管理・避難所での安否確認等） ・シルバー人材センターでのつながりは入りやすいきっかけになるので、シルバー人材センターへの呼びかけをしてもらいたい。 ・地域への関心が弱くなっているため、市民や教育でのボランティア精神をうたってほしい。 ・武蔵野市で市だった子どもたちが住み続けられれば良い。 ・一人の人に負担がかからないように、地域活動の縦割りを解消できるとよいと思う。市内のどの地域にもあるコミセン、青少協、防災会、福祉の会などを統合し、持続可能な地域団体になるようにする
-------------------	--

<p>地域社協(福祉の会)</p>	<p>には、市の主導があると有難い。</p> <ul style="list-style-type: none"> •活動を担い続けるには、事務局機能の維持がともてハードルが高く、そのことから会に入ろうという人材の気持ちの遠のいていると思う。 •活動の主となる拠点がなく、集まりの場所の確保にひと手間かかってしまう。 •活動の備品等の保管場所は、工夫して行わなければならない、難航することもある。 •「災害時要援護者」の個人情報満載の台帳を会長の自宅に保管するようになっているが、これは一刻も早く改善してほしい。 •実態に合わせた制度の改革をタイムリーに実施してほしい。 •要援護者と支援者のマッチングは有事にあまり現実的な方法ではないので廃止してほしい。 •要援護者事業と、新しい仲間を巻きこむことは相反するものだとも考える。 •防災課や健康課等と横の連携を図ってほしい。要援護者対策は防災課と重複する部分があり市内の自主防災とミスマッチが生じている。 •高齢者が地域と繋がることで健康増進を図るのは健康課でも大きな課題であると思われるため、我々の活動のあるべき方向性を見出すために必要なエビデンス（地区単位の人口統計データなど）を整備して活用させてほしい。
-------------------	---

(2) 地域福祉団体等で活動されている個人からの意見（要旨）

① 活動の課題・問題点

<p>民生・児童委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人材の確保と育成に向けた取組みで、地域で活動している人の顔ぶれが同じで、新しい人がなかなかはいってこない。 ・人材育成と次の世代への引継ぎが悩みである。 ・委員の高齢化と男性の参加が少ない。 ・活動に携わっている人が限られている。限られた人たちが、役割をいくつも担っている。 ・委員の高齢化が目立ってきている。 ・活動している人が高齢になって来ている。次に続いてくれる役員がない為、同じ人が長などを行っている。 ・老人クラブの加入者が減り、解散するクラブも出ている。行事も多く会計も高齢者には重荷なのでは。 ・災害要援護者対策で、最近オートロックのマンションが多くなり、そのようなマンションにお住まいの方は近所とのつながりを持ちたくない方も多い。何か方法がないか常に考えている。 ・コロナで活動がほとんどできなくなり、人も集まらなくなった。この空白期間で住民の帰属意識がダウンしたような気がする。 ・サロンの場所について、コミセンや公共の場が使えない点がある。 ・安否確認で、精神障害者の方や要介護5の方など、対応の仕方がわからないので、引き受け手がない現状がある。
<p>赤十字奉仕団員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の担い手の高齢化は切実な問題で、コロナもあり、次にバトンを渡す人が少なくなっている。またバトンを渡された世代もまだ働いているが、ほとんどの会議が平日の日中開催であり、参加が難しい。 ・60代の方は退職していく中で、自分自身で今まで社会貢献してきたようなことを生かしたいと思っている。 ・いきいきサロンの参加者は80代後半の方がメイン。人件費の問題で、人材の確保や育成は難しい。 ・分団の奉仕委員の高齢化が進み、若手の入団が難しい状況が続き、いつも同じ人達のみでの活動が続いている。 ・少しでも若い方にも活動に参加してもらいたい。 ・社会情勢も変わり、個別訪問活動が難しくなってきている。活動内容を多様化したほうがいい。 ・高齢者は高齢者、子どもは子どもと分けて活動していることが多いが、世代を超えて、活動できる場があったほうがいい。
<p>保護司</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の会、町内会等、同じような組織がある。

<p>地域社協(福祉の会) 会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 若い参加者が少なく、声掛けしても仕事があり忙しく、断られる。 • 担い手不足。これまで中心になってきた人の高齢化が進み、参加してくれる若い人がなかなか見つからない。違う団体にいっても、中心になっている人たちの顔ぶれは同じ。 • 会員の方々の高齢化で、新しい担い手がほしい。 • 新しい担い手の入会がなく、役員のみならず、同一メンバーで動きがない。スタッフの超高齢化の問題はぬぐえない。 • 活動している方々の高齢化。 • 若手の活動者の不足。 • 今は定年後再度働く人が多く、人材確保が難しい。行政職員、社協職員、民生委員福祉会員の三者が連携して真剣に取り組む必要がある。 • 災害時要援護者事業も安否確認支援者のなり手がなく、大きな不安となっている。 • ミニ集会などを開き、住民同士顔見知りになり、そこで活動を紹介、理解協力を訴えるなどしなくては。紙面だけでは協力や担い手は得られない • 新しい担い手を増やす方法が知りたい • ボランティアの気持のある人が少なくなり、収入を求めて福祉の会ではなくシルバー人材センターやコミセン活動に流れてしまう人が多い。 • 地域団体の認知度の低さ。 • 広報誌に協力者募集の記事を掲載したり活動紹介をしたりしても反応なし。SNSを通じた活動報告を行っているが反応なし。プレイスなどの他団体の支援を受けているが反応なし。 • 地域の方々に活動などを広く知ってもらいたい • 個人用の電話を使用するので、悪用されるのが心配。 • LINEなどが使える人が入ってくれないと、社会についていけない。 • 毎月の定例会も出席者は限られ少なく、議論が沈滞している。 • 広報配布の人員の発掘に苦勞。決まった人が多重に背負っている。 • 運営委員・協力員の平均年齢は70台後半。新規加入者もほとんどなく、広報誌の配付等の多くの人手を要する作業が困難。 • 高齢化とコロナによる3年間の活動停止により、運営委員の帰属意識が低下し会議等の参加率が著しく低下している。 • 会議の多さ。 • 世代交代がうまくいっておらず、旧来メンバーと新しいメンバーとの世代間ギャップがある。
--------------------------	--

<p>テンミリオンハウス 運営団体代表者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 男性の利用者さんの割合が少ないので、今後も男性利用者を増やすことに力を入れたい。 • 事務スペースが狭いので、何とか拡充したい。 • 役割は増しているのに、物価高騰や人件費の値上げで、運営費が圧迫されている。
<p>いきいきサロン運営 団体代表者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 活躍しているシニアの方は同じ顔ぶれであり、シニアの方を誘っても出てこない印象がある。 • 毎週水曜日にサロン開催しているが、参加者がほぼ固定化している。新たな会員をどのように増やすかが悩ましい。 • 参加しない登録者の安否確認も含めた対応をどうするか。 • 現在、中央商連の事務所を借りてサロン活動を行っているがスペースが狭い。段差などもあるため、配慮が必要な状況にある。 • 参加者の高齢化により、運営側の配慮することが多くなっている。 • コロナ禍になり、オンラインに切り替えて活動を続けている。 • コロナ禍の中、オンライン・リモートでやってきた。高齢者の皆さんもその便利なツールでの会合を感受しており、あらためて対面・リアルでの参加は面倒くささや時間の割り振りの問題の声も聞こえ躊躇している。 • 運営スタッフの交通費。 • 地域の方を中心に活動といっても知らない人が多い。自分の老人会やシルバー人材の方やコミセンの方に声をかけたが、高齢化しているので登録者の中から担い手を増やしたい。
<p>レモンキャブ運行管 理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 管理者の後継者問題。 • 事業継続に向け、世代交代も必要な時期になっている。 • 協力員の高齢化による引退による、日々のマンパワー不足。 • 地域福祉の活動をしている方は、世の中と同じ高齢化している。 • 人材の確保が難しい。 • 時間とともに運用に変化が出ているが、現状に即した変化を受けにくい。

② 担い手を増やす際に効果があった事等

<p>民生・児童委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 若い人が集まる地域防災や訓練での若い人への声掛けにより、それならやってもいいという方が増えた。 • ある地域でバーベキュー体験をしたら、若い方が結構参加した。高校生とその父親が参加した。地域のイベントは胎児で、若い方が関心を持ってもらう策が必要。 • 楽しい集いを行って、地域の若い方に参加してもらい、活動の説明をして参加依頼を行う。 • 日々の生活や近隣の人たちとのささやかな交流の中で、担い手の適任者を見出すことだと感じている。 • 知人で興味、関心のありそうな人に直接声をかけることが効果があった。 • 今困っている事、何ができれば助かるかなどが分かりやすく書かれた募集を見て、私でも良いかと一歩前に出たとの話しあり。
<p>赤十字奉仕団団員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 土日に会議を開催するようになり、若い世代も少しずつ入ってくるようになり、間口も広がった。 • 自分たちのグループ、団体活動がしていることを、例えばコミセンの文化祭で展示発表してチラシを配ったり、活動してできることを説明したりしている。 • 自分たちの情報発信を様々なグループとの交流でお互いに情報を発信し続けることが大切だと思う。活動を続けることで、ここにくれば何かある、何等かの情報がある、自分が参加できるものがあるという場が大切。 • 新しく越して来られた方に会った時は「このような活動をさせていただいている近所に住む〇〇です」とできるだけ話すようにしている。少しずつだが、次に繋がっていると感じる。 • 自分たちの活動を知っていただくため、昨年はハロウィンを行い、2~300人位の方が集まった。今年も実施のチラシを配布することで、知った方が少しでも声掛けしていただけたらと思う。自分たちがハブ的な役割になろうという感じである。
<p>地域社協(福祉の会) 会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 活動を続けていれば新しい結びつきが出てくる。 • イベントなどで、いろいろな団体が顔合わせをすると、今までなかった結びつきがそこでできるとまた新たなものが生まれる。 • 地域の諸団体や個人の方に声かけし、地域の活性化にはどうしたらいいかの意見交換をし、知恵を出し合った。その結果、今の吉祥寺市の西公園祭りにつながった。 • 運営委員が個人的に知り合いをさそい、運営委員になってもらった例はある。

<p>地域社協(福祉の会) 会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉の会の担当になっている PTA や青少協の委員で人気終了後も残って活動してくれる人が1人いた。(非常に珍しい) • ミニ集会など開き、住民同士顔見知りになり、そこで活動を紹介、理解、協力を訴えるなどしなくては。紙面だけでは協力や担い手は得られない。地道な働きかけが大事。 • 地域の諸団体、個人に声をかけ、「地域の活性化」にはどうしたらいいか意見交換をし、「吉祥寺西公園なかよし祭り」の開催につながった。 • 運営委員会にオンラインを導入し、ハイブリッド型にしたことによって働き盛り世代の傍聴を可能とした。傍聴者の中から入会者も出て役員もしてくださっている。
<p>テンミリオンハウス 運営管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • チームワークを大切にしているので、スタッフの知り合いや紹介をお願いするようにしている。
<p>いきいきサロン運営 管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シニアの方に役目を持っていただき、協力してもらいながら、運営側に入ってもらおうようにしている。 • 運営側の人たちをしっかりとねぎらい、がんばってくることを認めることが大事である。 • いきいきサロンで活動されていることを発表できる場をつくること、楽しくやっている姿をみてもらい、参加のきっかけづくりになればと思っている。 • 大学との共催で「備えとしての関係づくりー共助による災害時の応急救護ー」というイベントを実施。近隣の子育て世代の親子や高齢者に参加していただき、多世代交流の場として盛況に実施することができた。その結果、地域住民同士の関係強化、またイベントに参加したことで地域活動に興味をもってくれた子育て世代もいた。 • 市内で活動している内容を PR できるイベント等の開催。 • 運営者が高齢化しておりコーディネーターを介しサポートできる体制。 • 拠点を活用して共催イベントを実施し PR。 • 一人ひとりの口コミが意外と効果がある。ご近所、親しい友人に声かけ、当人一緒に来てもらう等、継続は力なり。
<p>レモンキャブ運行管 理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 協力員は基本的にボランティアの認識で運行していると思うが、新しく人材を確保していくには、収入面を期待する人もいると思う。 • 希望によりフルタイム勤務も可能とすることで、若年層(50~60代)の採用も可能になるのでは。 • 協力員、管理者からの担い手は事業に対して理解して入る方が多い。 • 消防団の定年は60歳で、地域のことに大変詳しく、まだまだ働ける。協力をお願いしても良いのでは。

③ 市に支援・推進してほしいこと

<p>民生・児童委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・独居調査において、70 歳以上の方に年に数回でも良いので、入浴券（無料）を配布して欲しい。 ・元気な高齢者が送迎付きで、気軽におしゃべりする場所を作っただけなら嬉しい。（居場所・サロンなど） ・高齢者の交通事故が全国的に増えている状況。高齢者が免許を返納するにあたり特典を与え返納しやすい環境を作っていただきたい。 ・独居調査においての意見だが、70 歳以上の方に年に数回でも良いので、入浴券（無料）を配布して欲しい。 ・元気な高齢者が送迎付きで、気軽におしゃべりをする場所を作って頂けたら嬉しい。（居場所、サロンなど） ・もう少し効果的に PR すればいいと思う。 ・地域福祉活動を SNS で一部行っているが、他にもアンテナを出して若い方が関心を持ってもらう策が必要。 ・窓口について、横のつながりをもっとして、市役所内を行ったり来たりしないで済むようにしてほしい。 ・元気な高齢者が出来るスポーツや活動を考えてほしい。 ・担い手を増やす工夫として、ボランティアの力も大切だと思うが、市役所の各部署の職員さんもチームを組んで努力していただくことも大切。
<p>赤十字奉仕団団員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・赤十字奉仕団の募金活動について、昨今個別訪問へのご理解が難しいことも多く、市から公報誌や街頭募金キャンペーン等をすすめていただきたい。 ・会員の高齢化で活動できる方が減少してきた。市の公報誌等で積極的に会員募集を周知いただきたい。 ・個別訪問でのトラブルが多発している昨今、訪問を歓迎しない方が多い。個別訪問以外の手法を検討いただきたい。 ・市報などでも、分団員募集の掲載をお願いしたい。
<p>保護司</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コミセンを中心にして、その中に福祉の会や防災等を入れて、一本化するようにしたらどうか。

<p>地域社協(福祉の会) 会員</p>	<ul style="list-style-type: none"> • シニアポイントは 40 歳以上にしてもらい、その世代は体力もアイデアもあるので、スキマ時間に地域福祉に使っていただけるようにしてほしい。 • 居場所づくりに協力してくれる場所がない。 • 計画書を読破している人は少数。多くの住民は読むことなく、計画内容を知らずにいる。行政の方が町にきて、コミセン運営会・福祉の定例会、在支の集会、活動団体等で住民にわかり易く説明して、協力を訴える機会を作してほしい。 • 高齢女性が各活動や広報配布など悩みながら頑張っているが、行政の方が一緒に考えてくれ、励ましてくれたら、どんなにか心強く張り合いも出てくるのではと思う。 • 居場所や拠点になるところがなく、コミセンを居場所やいきいきサロンや地域社協の拠点として利用できるようにしてほしい。 • こう言うボランティアの団体があると言う事を転入した方々に周知してほしい。 • 災害支援にすごく不安を感じている。 • 要援護者と支援者のマッチングは、有事にあまり現実的な方法ではないので廃止してほしい。 • 現在、高齢者福祉においてはコミセン、在宅支援センター、テンミリオン、いきいきサロン、社協の居場所等、市内どこでも高齢者が楽しめる場所があり、手伝いに行けばポイントが付き、地域社協など作らなくても行政の政策に引っ張り出されて手伝っている人の方が多いと思う。このことを考え、地域支援課と市民社協で話し合っしてほしい。
<p>テンミリオンハウス 運営管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 物価高騰もあり、人件費について何か方策を講じてほしい。 • 物価が上がっているので、もう少し補助金を増やしていただくと助かる。
<p>いきいきサロン運営 管理者</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 毎年の報告書は素人が携わっても簡単に精算できるような内容にしてほしい。 • ボランティアも交通費程度の支払いがあるといい。 • 演目について講師等紹介してほしい。 • いきいきサロン活動を充実させるためには、安全に活動できる場所とスタッフの人員確保が必要であるため、活動費も増額やスタッフの人件費補助を検討してほしい。 • 市内参加者募集の広報 PR とむさしの FM や JCOM 武蔵野などの活用。 • 運営ボランティアの募集も含め市報などの活用。 • ある程度、スタッフへの資金助成が必要。

いきいきサロン運営 管理者	<ul style="list-style-type: none"> • 市報に特集を組んで、いきいきサロンはこんな活動をしています。だれでも自由参加、見学も出来ます。なるべく親しみやすい文言でPRをしていただきたい。 • 講座講師料の上限価格の見直し
レモンキャブ運行管 理者	<ul style="list-style-type: none"> • レモンキャブ運行管理は、各号車の管理者が行っているが、運行予定が重なり断りをするケースがある。1～9号車の予定全般を把握し、集中管理手配が可能となるシステム等の導入を検討してもらいたい。 • 吉祥寺駅南北に、駐停車スペースを設けて戴きたいと10年以上前から申し上げている。 • コミュニティセンターはまだ活用できる。上手に活用すべき。 • ボランティアではあるが実働時間、稼働日数に負担が多い。 • 運行中の会話などから利用者の生活や体調の変化を感じることがあり、市民社協へ連絡し、対応していただいている。